

「

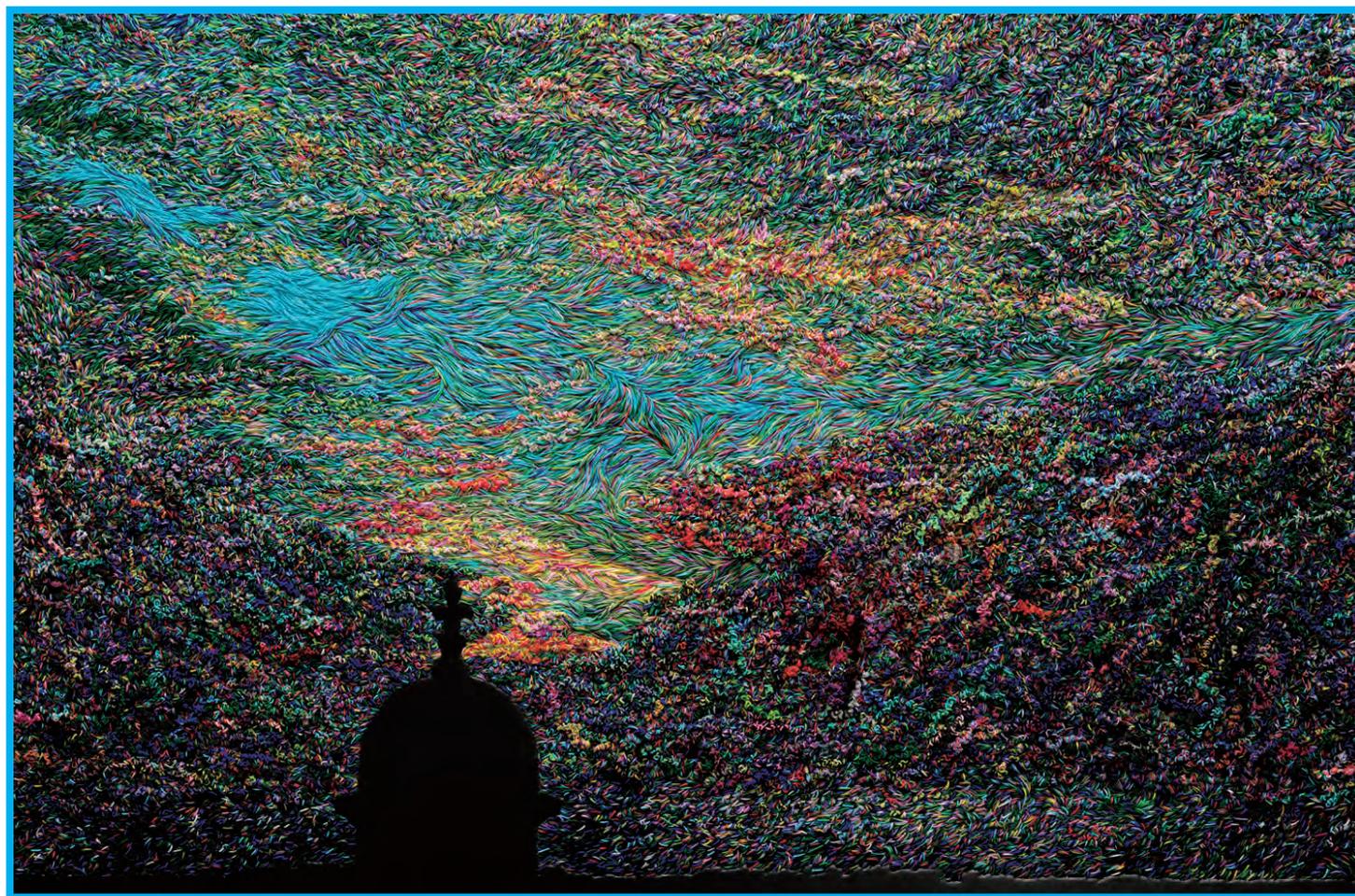
BELIEVE

2014
新年号
VOL.47

」

● 臨床検査科部

● シリーズ 情熱の白衣・看護師レポート



Saint-Malo ● 38 廣瀬 良太郎 ・制作年/2012 ・素材/写真、水引 ・580×880mm

<http://www.d-n.jp>

「強烈な水色、あふれてくる水色」-芸術作品は現実を見るための目-
北フランス・ブルターニュ地方のサンマロという町の写真をベースにして、絵の具の代わりに水引を使って描いている。
強烈な水色が芸術を通して現実にあふれ出している。

大阪赤十字病院の基本理念

わたくしたちは人道・博愛の赤十字精神に基づき
すべての人の尊厳をまもり
心のかよう高度の医療をめざします

患者さまの権利

1. だれもが、一人の人間として、人権がまもられる権利を尊重します
2. 良質かつ適切な医療が、公平に受けられる権利を尊重します
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利を尊重します
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利を尊重します
5. プライバシーがまもられる権利を尊重します

臨床検査は、患者さまの病気の診断、治療、予防に大きな役割を担っています。

平成25年1月より当院は電子カルテに移行し、当部もこれに伴い、迅速、正確をモットーに組織づくりをしています。

また、24時間体制に対応できるように、毎日2名の技師が交代で夜勤、日当直の業務を行い、救急外来や入院中の患者さまの検査を行っています。



副院長
兼臨床検査科部長
藤堂 義郎



臨床検査科部技師長
達城 行準



①生化学自動分析機 4,800項目/毎時、処理します。このクラスでは最速の分析機です。



⑥血液像目視鏡検
顕微鏡で白血球の分類をします。



④血液ガス自動分析機
呼吸機能状態を反映します。



⑦尿検査自動分析機
尿中の蛋白、糖などを測定します。



⑤免疫検査自動分析機
肝炎ウイルスマーカー、腫瘍マーカー、
甲状腺機能などを測定します。



③糖尿病関連自動分析機
血糖やHb-A1cを測定します。



②生化学自動分析機
検体を1,200回/毎時の早さでサンプリングします。

●微生物検査 (写真⑧)
検体を培養し、病気の起因となる菌を発見する検査です。

●尿、便検査 (写真⑦)
尿定性や便の潜血などを測定する検査です。腎機能、肝機能などの異常を発見します。

●血液検査 (写真⑥)
赤血球、白血球、血小板などの数や機能から、貧血や炎症、止血機能を測定する検査です。

●免疫検査 (写真⑤)
肝炎ウイルスマーカー、腫瘍マーカー、甲状腺機能などを測定する検査です。

●生化学検査 (写真①、②、③、④)
血液や尿などに含まれる化学物質を測定する検査です。肝機能検査、腎機能検査、糖代謝検査、脂質検査、心筋検査、血液ガス検査などがあり、さまざまな臓器の異常を発見します。

●日常検査 (一部など)
▼検体・医学上の検査の材料(血液、尿、髄液や組織の一部など)。

●検査の流れ
まず、検体検査課が、どのよ
うな業務を行っ
ているのかをご
紹介します。

現在、検査技
師26名が、検体
検査を担当して
います。取り扱う検体は、血液、尿、体液
(胸水、腹水など)です。これらの検体を用
いて、さまざまな部門の検査(次の代表的
な検査)を行い、診療に役立てています。

現在、検査技
師26名が、検体
検査を担当して
います。取り扱う検体は、血液、尿、体液
(胸水、腹水など)です。これらの検体を用
いて、さまざまな部門の検査(次の代表的
な検査)を行い、診療に役立てています。

まず、検体検査課が、どのよ
うな業務を行っ
ているのかをご
紹介します。

現在、検査技
師26名が、検体
検査を担当して
います。取り扱う検体は、血液、尿、体液
(胸水、腹水など)です。これらの検体を用
いて、さまざまな部門の検査(次の代表的
な検査)を行い、診療に役立てています。

まず、検体検査課が、どのよ
うな業務を行っ
ているのかをご
紹介します。

現在、検査技
師26名が、検体
検査を担当して
います。取り扱う検体は、血液、尿、体液
(胸水、腹水など)です。これらの検体を用
いて、さまざまな部門の検査(次の代表的
な検査)を行い、診療に役立てています。



▲4階検体検査室

●脳波検査
頭部に電極を付けて、脳神経の状態などを調べます。

●超音波検査
被曝の心配がなく、リアルタイムで各臓器の動き、状態を把握することができます。

●心臓系検査 (写真⑨、⑩)
心電図、負荷心電図、ホルター心電図、ト
レッドミルなどがあり、心筋梗塞や心臓の
異常を発見します。

●呼吸機能検査
肺活量などを測定し、肺の機能、状態を
調べます。

●検査内容を簡単にご説明します。

次に生理検査課の業務をご紹介します。

現在、検査技師22名が生理検査を担当
しています。生理検査は、近年、医療機器の
開発が進み、検査項目が増えています。

予約検査(超音波、脳波など)の待ち時間
も、できるだけ短くするように努めていま
す。データはほとんどが電子化され、電子
カルテで波形までもが画像として扱われ、
容易にそのデータを見ることができ、診療
に大変役立っています。

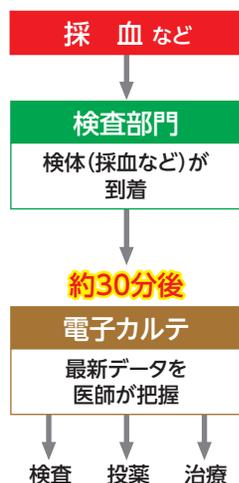
検査内容を簡単にご説明します。

次に生理検査課の業務をご紹介します。

現在、検査技師22名が生理検査を担当
しています。生理検査は、近年、医療機器の
開発が進み、検査項目が増えています。

予約検査(超音波、脳波など)の待ち時間
も、できるだけ短くするように努めていま
す。データはほとんどが電子化され、電子
カルテで波形までもが画像として扱われ、
容易にそのデータを見ることができ、診療
に大変役立っています。

検査内容を簡単にご説明します。



生理検査課

〈検査結果の報告について〉

時間帯や検査項目にも左右されますが、
外来のスムーズな診療に役立てるように、
約30分でデータを電子カルテ側に返すよう
に努めています。これにより、医師が患者
さまの最新のデータを把握でき、次の検査、
投薬、治療に役立っています。

診断・治療・予防に役立つ 臨床検査データづくり

臨床検査科部



← 臨床検査科部は、総勢約50名で構成されています。



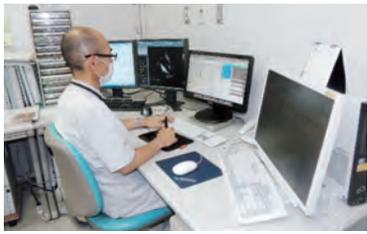
⑫腹部超音波 所見入力 超音波の画像を見ながら、所見を入力します。



⑩標準12誘導心電図 一般に心電図検査と呼ばれている検査です。



⑬サーモグラフィ 血流の障害を調べます。



⑪心臓超音波 所見入力 超音波の画像を見ながら、所見を入力します。



⑨トレッドミル運動負荷心電図検査 運動によって負荷をかけ、心電図の変化を検査します。



⑧血液培養自動分析機 血液中の細菌を、24時間程度で検出します。

精度管理について
臨床検査の精度については、日常の精度管理に加え、毎年、日本医師会、大阪府医師会、日本臨床衛生検査技師会などのコン

精度管理について
外来の予約数により、患者さまには採血の待ち時間が長くなり、ご迷惑をおかけすることもございますが、職員一同、精一杯の努力をしておりますので、ご理解のほどよろしくお願いたします。

れ、採血の取り間違いを防いでいます。

バーコードがマッチングさ

ードと、採血のテーブルにあ

患者さまのお持ちのバーコ

が発行されます。これにより

された時点で、バーコードが

採血室に到着

名前後です。

は、平均700

1日の採血数

を7名で採血

検査技師6

探血室のご紹介

などの血流の低下などを診断します。

体表面の皮膚温度分布を測定し、手足

の状態を調べます。

胃潰瘍、胃炎の原因菌とされるピロリ菌

の状態を調べます。

音のない部屋で『聞こえ』の検査をし、難

聴の原因を調べます。

変、肝臓がんなどを発見します。

肝臓や腎臓などの状態を把握し、肝硬

心臓の動き、血管や血流の状態を把握し、

心臓の機能の異常を発見します。

〈腹部超音波検査〉(写真⑫)

探血室のご紹介

検査技師6

を7名で採血

1日の採血数

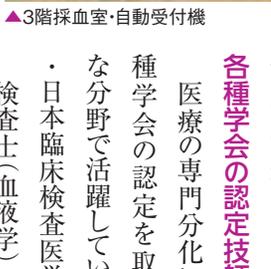
は、平均700

名前後です。

患者さまが



▲3階中央採血室。多い日には、1日800人の患者さまがお越しになります。



▲3階採血室・自動受付機

各種学会の認定技師の紹介

医療の専門分化に対応し、次の各種学会の認定を取得し、さまざま

な分野で活躍しています。

・日本臨床検査医学会認定「級臨床検査士(血液学)

・日本血液学会認定血液検査技師

・日本微生物学会認定微生物検査技師

・日本超音波医学会認定超音波検査士

・日本糖尿病学会認定糖尿病療養指導士

以上、臨床検査科部では、患者さまの

診断、治療、予防に少しでも貢献できるよ

う、より良い検査体制を整えていきたいと

考えています。

トロールサーベイ(外部による精度管理シス

テム)に参加し、大変優秀な成績を収めて

います。また、検査分析機のユーザー会の

コントロールサーベイにも積極的に参加し、

日々、精度の維持、向上に努めています。

診療支援連携について

診療支援連携では、糖尿病教室、栄養

サポートチーム(NST)、感染制御チーム

(ICT)に積極的に参加しています。

糖尿病教室は、外来1回、入院1回と

毎月計2回開催しており、当部の糖尿病

療養指導士が、患者さまの指導、教育に

あたっています。

有本 明

第一消化器外科部長兼外科統括部長

進化できる現場と運営体制に取り組んで



AKIRA ARIMOTO

2月24日、愛知県生まれ。京都大学医学部卒業後、神鋼病院に勤務。その後、京都大学大学院医学研究科・医学部を卒業し、1987年より大阪赤十字病院に勤務。肝臓外科を専門とする。平成25年に第一消化器外科部長兼外科統括部長に就任。本年度で勤続年数27年を迎えた。

患者さまの期待と、病院の努力と。双方が重なりあつて、高度な医療がつけられています。

手術を増やすには人材も必要。そこを充実させて、まだ待つ患者さまを安心させたい。

平成24年度の外科の総手術数は1,755件。ひと月にすると146件。20名足らずの医師で診察・手術をこなすのは、大変なのかそうでないのか。有本医師の言葉を借りて言えば「医師一人あたりの手術が多すぎて忙しいため、医師の数をもう少し増やしたいところ」とのことである。第二消化器外科部長の有本医師も、現場で診察・手術を行う上、外科統括部長も兼任しているのだから、さらに忙しそうだ。「外来患者さまの診察と手術、それ以外の時間は人材確保に動いています。ひと月100件以上の手術をしています。ひと月100件以上の手術をしていますが、まだ多くの患者さまが手術を待っている状況。患者さまの待つ負担、また医師の過剰勤務を減らせるよう、人材をやりくりする仕事が一番大変ですね。」

叔父が医師であったこと、手術が興味深いと思っていたこと、消化器科はいろいろな臓器の医療に携わることが、医師を志したきっかけだそう。「これまでの仕事で、ああすればよかったと思うこともあります。ですが、診断する、手術をする緊張感から、成功して達成感を味わえるのは、何とも言えない喜びです。外科医療は常に進化していて、いつまでも向上できる。外科医師になって良かったと思いますね。」

当院に勤務して27年。当時と今とはどんなことが変わりましたか？との質問に、「医療安全に対する考え方」と答えられた。「患者さまが十分に納得できる説明をもって診療し、手術を行う。近頃はインターネットなどで患者さまも情報を得ているので、どんな情報にも対応して安心していただくことが大切です。医療安全における規則も高度化しているため、今後よりよいものに変わっていくと思いますね。」

休日の楽しみは孫に会う時間。孫は本当に可愛いですね。有本医師には今、とても可愛い存在

がいる。初孫の悠吾くんだ。「次女に子どもが生まれて、2歳になります。孫は本当に可愛くて、子どもより可愛いと思えるくらい。月に2回ほどは会いに行きますね。」取材時には上の娘さんのご結婚も控えているなど、めでたいお話を聞かせてくれた。



端午の節句のお祝いを一緒に。奥様の裕子さん、悠吾くん、次女の真希子さんと。

消化器外科は、新しい技術である腹腔鏡での手術を導入し、その手術件数の多さは、全国の病院の中で3番目を誇る。「患者さまにとって、体の負担も気持ちの負担も少なくなります。人員を増やし、手術枠を増やして、医療のレベルアップを図っていききたいですね。」

有本医師が当院に来た頃は、診療手術・入院の続き・転院する病院探しと、すべて医師が行っていたのだとか。患者さまも病院側もレベルアップしてきた今、有本医師が目指す人材技術が充実したときには、さらに上を行く医療が届けられるのだろうと楽しみにある。

看護師レポート◆47

看護師、管理者、よりよい医療をつくらせる能力を磨きたい

山下 美雪



さまざまなか所に属する患者さまが集まり、医師・看護師だけでなく、救急救命士などの他職種スタッフと関わりを持つ救急救急センター。そこに勤務して6年目になります。一般病棟の看護師としてスタートしてから、人事異動で救急救急センターに移ることになったときは、看護師になって5年が経っていました。ですが、自分の仕事に「これでよかったのだろうか」と悩むことも多かったですね。新しい現場でしっかりやっていたらどうかと自信を持っていました。

救命救急センターには、一日平均90人近くの患者さまが運び込まれてきます。患者さまの状態確認、処置する判断の速さ、仕事の確実さが求められます。仕事に慣れるまで緊張感からくるストレスはありましたが、ここで働くことは、これまでの経験を活かして仕事をしていることなんだと、自信もついてきたと思います。

忙しいと思われのですが、きちんと休んでリフレッシュしています。好きなアーティストのDVD鑑賞やおいしいものを食べに行くことが、楽しみのひとつ。ぶらっと買い物に出かけたりもします。

この春より、管理者を目指す研修に参加する予定です。病棟、救命救急センターの勤務を通じて、後輩指導や病棟運営の重要性も実感し、管理者としての勉強をしてみたいと思うようになりました。東日本大震災の救護班としての派遣経験も、大きなきっかけだったと思います。患者さまに安心していただける医療・看護を届け、短期間で信頼関係を築くために、またスタッフに必要な心構えやスキル、その能力が発揮できる環境をつくるために、そこで生じる問題を解決する力やマネジメント力などを磨いていきたいですね。スタッフや後輩を支えられる仲間・先輩として、患者さまに寄り添える看護師として、今以上に自分を成長させたいと思っています。



ライブに行き、DVDでも楽しんで。アーティスト・清水俊平の大ファン。「彼の作詞には刺激を受けますね。仕事の励みになります。」

MIYUKI YAMASHITA

8月13日大阪府生まれ。大阪赤十字看護専門学校卒業後、当院に入職。糖尿病内分泌内科、神経内科などの内科の病棟勤務に従事する。平成21年より救命救急センターへ異動。勤続11年目となり、今春より管理職への勉強をスタートさせる。

旬の食材と 栄・養・素

栄養管理課 管理栄養士 山口 翔平

本格的な寒さが続き、ふとんの中から出ることも難しくなっています。冬は空気が乾燥しているため、のどを痛めたり、風邪が長引いたりすることもあるでしょう。体の免疫力を保つためにも、よく食べ、しっかりと睡眠をとることが重要です。

また、冬には大晦日、お正月と、どついてもお酒の飲み過ぎや食べ過ぎなどで体調を崩してしまいがちですが、年の初めに体調を崩してしまうと一年が心配になりますね。きちんと運動することを心がけ、栄養満点の旬の食材を取り入れましょう。

冬の旬の食材

●野菜

カボチャ、サツマイモ、カリフラワー、カブ、ホウレンソウ、レンコン

●果物

ミカン、リンゴ、ユズ

●魚

カキ、カン、キンメダイ、タラ、ブリ、マグロ など

冬の口の過いっ方

冬の寒い時期になると、温かい風呂にゆつくりと入りたくありません。冬至は、一年の中でも最も昼が短く、夜が最も長い日です。冬至の日に柚子湯に入ると、風邪を引きにくいといふ言い伝えがあり、強い香りから邪気を起こさないとも言われています。香りは、心身へのリラックス効果も期待できます。

また、冬至の日には食べるものにも意味があり、「ん」がつく食べものを食べると、運を呼び込むことができると言われています。カボチャ・ニンジン・レンコン・ダイコン・キンカン・ミカンなどが縁起が良いとされています。カボチャは、カロテンを豊富に含んでいるので、風邪の予防には効果的です。カボチャを食べると、柚子風呂に入り、しっかりと風邪予防を行って、新年を過ごしましょう。



お薬ニ知識

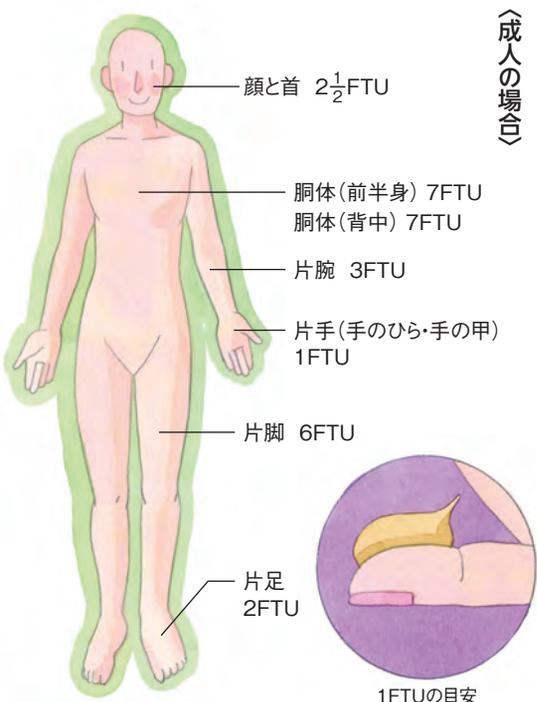
薬剤部 谷大輔

皮膚の乾燥予防と対策

この季節、乾燥に悩む方も多いのではないのでしょうか？ 私たちの皮膚表面は、皮脂腺から出た脂と汗から構成される、皮脂膜という天然のクリームに覆われており、外的刺激（細菌やほこりなど）から肌を守り、肌の水分の蒸発を防ぐ働きがあります。冬になると、脂の分泌と汗が少なくなるため、皮脂膜が不足し、皮膚の乾燥が生じやすくなります。皮膚の乾燥には保湿剤が効果的です。

今回は、皮膚の乾燥対策と保湿剤を効果的に塗る5つのポイントについてお話します。

- ポイント①** 入浴の際は、お湯はぬるめにして、長風呂を避ける。皮脂が抜けやすくなり、肌が乾燥しやすくなることを防ぎます。
- ポイント②** 入浴後は、早めに保湿剤を塗る(5分以内が効果的)。入浴後、水分はみるみるうちに蒸発して3〜5分で乾燥します。早めに保湿剤を塗ることで、水分が逃げないように防ぎます。
- ポイント③** 少し多いと感じる程度の量を塗る。塗り薬の適正な量の目安として、「FTU」という単位があります。1FTUとは口徑5ミリのチューブの薬を、人差し指の先端から第一関節まで絞り出し



〈成人の場合〉

た量の単位で、1FTUで手のひら2枚分の面積が塗れます。ローションタイプでは、1円玉くらいの量が1FTUの量です。手のひら以外の部位に塗る場合の目安については、左図のとおりです。

- ポイント④** 体のしわに沿って塗ると、皮膚に広がりがやすくなる。
 - ポイント⑤** 湿疹などがある場合や、他の外用薬を使用されている場合は、医師・薬剤師の指示に従ってください。
- 保湿剤を正しく塗り、この冬の乾燥を乗り切りましょう。

「こころ」だって「からだ」です。

がんサポートチーム 精神神経科 医師 植野 仙経

がんサポートチーム(緩和ケアチーム)には、私たち精神科医も参加しています。皆さまは、風邪をひいてひとりで休んでいるときに、心細い思いをしたことはありませんか？ あるいは頭痛や生理痛がずっとつらくて、イライラした経験はいかがでしょうか？ このように、病気は「こころ」にも影響をおよぼし、ときに大きな苦しみをもたらします。

がんサポートチームの精神科医は、不安や不眠、気持ちの落ち込みといった、精神的な問題を解決するお手伝いをしています。もちろん、そのような精神的な問題は「精神科の病気」とは限りません。むしろ、それは誰にでも起こりうる、普通の「こころ」の動きです。しかし、そのようなつらさをひとりで抱え込んでしまい、誰にも話すことができないという状況は、たいへん苦しいものです。そのつらさを、さっさとお気持ち私たちに話していただくこと、その苦しみを和らげることができれば幸いです。

がん看護相談室

当院では、がん全般に関するさまざまなご相談をお受けしています。

TEL:06-6774-5192 FAX:06-6774-5126

syakaika@osaka-med.jrc.or.jp

「平成25年度 院内災害訓練」報告

Report 国際医療救援部長 中出 雅治

今年度で9年目となる院内災害訓練。皆さま、ご協力ありがとうございました。



赤エリア(救急救命センター)は、重病者でごった返す。

今年度も昨年度と同じく10月1日に、各市消防、大阪府警など、府下の多数の防災機関とともに、院内災害訓練を行いました。この訓練は、災害拠点病院として、実際に大阪市で大震災が起こった場合に、本当に被災者を助けられる体制をつくることを目的として平成17年から行っており、今年で9年目となります。

訓練は毎年13時から開始され、訓練時間中は本当に被災した場合と同じ状態で行うため、午後からの病院業務をすべて停止して行っています。

訓練では、創傷メイクをした200名以上の模擬被災者が院内の敷地に倒れていて、その被災者を消防職員、警察署員の隊員が救出、病院に搬送し、病院の全部署の職員が参加して治療を行います。救出する際、どこにどんな被災者が何人いるかといった情報は、病院職員はもちろん、消防、警察の隊員にも知らされていません。病院は被災者を受け入れ、診察、検査、処置や手術を行います。今年により多くの被災者を病棟や手術室等に受け入れて、非常時の対応を確認するために、地震発生から5時間後を想定し、病院内に模擬被災者を50名ほど受け入れて行う状態で行った訓練を開始しました。

訓練は全職員が参加し、できるだけ実際の行動に近づけることで、毎年多くの新しい課題が見つかり、それに対応するということを繰り返しています。

患者さまには例年ご迷惑をおかけいたしますが、これも地域災害対策の一環でありますので、今後ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。災害対策は病院だけでなく、一般市民の方々と協力しなければ大災害に立ち向かうことはできません。このことから、当院では毎年8月第二日曜日に、親子で学んでいただく体験型の防災セミナー『災害』を開催しております。次号『びり〜ぶ春号』で詳細をご案内いたしますので、どうぞ奮ってご参加ください。



被災者を救助する大阪市消防、大阪府警などの隊員。



手術室では被災者の緊急手術を行う。



黄エリア(1階ロビー)では多数の外傷を処置。

冬季うつ病という言葉をご存じでしょうか?

精神神経科部長 吉田 佳郎



うつ病とは代表的な精神疾患のひとつで、元々は元気があつた人が急に元気がなくなり、「物悲しく、寂しい」といったゆううつな気分や、「人と出会ったり、話すことが億劫になる」という意欲の低下が続く状態です。

夜も眠れず、食欲もなくなり、仕事や買い物に出かけることも困難になってきて、先行きに対して悲観的になってきます。

うつ病(うつ状態)については、古代ギリシャ時代から知られており、「メランコリー」という言葉で表現されてきました。しかし、うつ病の原因については、まだよく分かってはいません。

ただ、反復して出現しやすいこと、あるいは特別な状況や環境がうつ病を引き起こしやすいことが知られています。例えば、望まない転職や配置転換、大切な人との別れなどです。しかし原因が分からずに、うつ病を発症することも多くあります。毎年決まった時期にうつ病を発症し、仕事を長期間休むということもあります。

「冬季うつ病」も、そのひとつと考えられています。秋の終わりにうつ病を発症し、春が近づくとともに回復していきます。原因としては、寒くなってきたり人間の活動が低下し、家に引きこもりがちになること、秋から冬にかけて日照時間が少なくなることが挙げられます。

人間には1日24時間を単位とした生活のリズムがあります。日中明るい時間は外で活動し、暗くなると家で休息と睡眠をとります。それを「概日リズム」と表現します。冬になると、このリズムが乱れやすくなることから、「冬季うつ病」の原因のひとつと考えられます。

「冬季うつ病」の予防法としては、寒さに負けず、規則正しい生活を送ること、食事や睡眠を十分にとり、風邪を予防することなど、健康管理に気をつけることが大切です。



Seminar 大阪赤十字病院「第4回 世界腎臓デー」啓発イベントを開催します



毎年3月の第2木曜日は、「世界腎臓デー」と定められています。慢性腎臓病の早期発見と治療の重要性をより多くの人々に知っていただくために、当院では「世界腎臓デー」啓発イベントを実施しており、今回で4回目となります。

今年は3月13日(木)午前10時から12時まで1階玄関ホールで開催されます。

当日は、医師・薬剤師・管理栄養士が腎臓に関連した講演を行い、血圧測定・医療相談・栄養相談・薬剤相談のブースを開設し、それぞれご相談に応じる予定です。参加申込は不要ですので、皆さまどうぞご参加ください。

●お問い合わせ先/2階8番窓口(医療社会事業課)

News 薬剤師の制服変更について ～お薬相談時の目印に!～

薬剤師のユニフォームを、11月より一新しました。今までのケーシーから紫色のスクラブに変え、薬剤師がどこで活躍しているの一目瞭然となっています。

今回、ユニフォームを変更したことには理由があります。それは7月より病棟薬剤業務を開始し、それぞれの病棟に薬剤師が常駐しているためです。新しいユニフォームの色を「薬剤師の目印」として、医師や看護師その他の医療スタッフとともに、気軽にお薬の相談をしていただければと考えています。そして薬剤師も薬物療法のサポートに責任をもって担当することから、気持ちを新たにしています。

患者さま一人ひとりのために、より良い薬物療法が提供できますようこれからも日々努めてまいります。



Event 「クリスマスコンサート」が 2階受付ホールで開催されました



12月15日(日)午後2時から2階総合受付ホールで、毎年恒例のクリスマスコンサートが開催されました。

はじめにピアノ・エレクトーンステージとして、当院薬剤師と当院元看護師による演奏が披露され、続いてハンドベル・コーラスス

テージとして、大阪赤十字看護専門学校3年生18名による演奏と合唱が披露

されました。コンサートにはご入院中の患者さまなど約200名が来場され、それぞれのステージでは「ジングルベル」や「赤鼻のトナカイ」などのクリスマスメドレーが演奏されました。観客の皆さまからは、「一足早いクリスマス気分を味わうことができました」などの声が寄せられました。



▶当院では、今後も病院内で入院中の方や来院者の方々にお楽しみいただけるコンサートを開催する予定です。次回は、当院ホームページや院内ポスターなどでご案内いたします。どうぞご期待ください。

<http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>

Event キャロリングが開催されました



12月19日(木)の夕刻、当院があたたかい歌声とやわらかなろうそくの灯りに包まれました。これは、キャンドルを持った当院の看護学生と看護師の聖歌隊が「ご入院中の患者さまにやすらぎとなぐさめを」との気持ちを込めて、聖歌を歌いながら病棟を

回る「キャロリング」という行事です。

行事の最後には、正面玄関ホールに列を作った聖歌隊が美しい歌声を奏で、幻想的な雰囲気を作り出しました。毎年クリスマス前に行われるこの行事のあたたかさ、入院中の患者さまも癒しのひとときを過ごされたようでした。



Seminar 循環器内科「市民健康講座」が 開催されました



10月5日(土)午後2時から大阪国際交流センター(天王寺区)において、当院主催(共催:天王寺区医師会)で循環器内科「市民公開講座-今どき生活習慣病-」を開催しました。

当院の循環器内科では年1回、市民の皆さまを対象に予防啓発活動を目的として、市民公開講座を地区を変えて開催しています。生活習慣病としての心筋梗塞・狭心症等の説明、その治療法や食事療法などを紹介しています。

今回は地元天王寺区での開催でした。当院循環器内科稲田部長を座長に林副部長・福地医師・徳永医師から、心筋梗塞・閉塞性動脈硬化症やメタボリックについての説明、姫野理学療法士から靴に関する運動の話、伊藤管理栄養士から食事についての講演があり、63名の方が参加し熱心に聴講されました。

当院では、市民の皆さまを対象にさまざまな講演会等を開催しております。開催については適宜お知らせいたしますので、ぜひご参加ください。

Report 海外たすけあい

日本赤十字社はNHKと共催で「海外たすけあい」義援金を募集し、当院でも12月1日～25日まで院内各所へ募金箱を設置しました。皆さまから総額25,188円もの心温まるご寄付をいただきました。これらの義援金は、紛争あるいは自然災害の被害者、飢餓や疾病に苦しむ人々への支援など、さまざまな事業にあてられます。たくさんのご協力ありがとうございました。

編集後記 あけましておめでとうございます。今年は午年です。私事ですが、また自分の干支が巡って来ました。12歳のときは自分の干支が回ってくるのがうれしかったことを記憶しています。2周目の24歳の今年は、そのときのイキイキとした気持ちを思い出し、2014年のスタートを切りたいと思います。皆さまにとっても素敵な一年の始まりになりますように。(Y.N)

外来診療担当表

平成26年1月10日現在

午前診療 午後診療

科目	曜日	月	火	水	木	金	備考
消化器内科		津村	中島潤	邊見	井口	齋藤	
		松田史	遠藤	圓尾	喜多	西島	
		関川	岡部	大崎往	米門	圓尾	
		大原		坂本梓	竹田		
		津村	中島潤	邊見	丹家	齋藤	すべて予約制
		松田史	遠藤	丸井	奥	西島	
		関川	岡部	福原	米門	佐田	
消化器内科(肝臓外来)		喜多	大崎往	木村	那須	西川	午後は予約制
糖尿病・内分泌内科		武呂	松尾浩	米光	武呂	南部	すべて予約制
		米光	南部	午前:南部 午後:村上隆	松尾浩	村上隆	
血液内科 (移植外来)		篠原	水谷	右京	金子	平田	すべて予約制
		金子	平田	通堂	水谷	通堂	
		篠原	水谷	右京	金子	平田	
		辰巳	小西	通堂	三谷	高橋	
					篠原	右京	
					酒巻	右京	
リウマチ・膠原病内科		片山	鬼澤(予約)	片山(予約)	伊藤博(予約)	伊藤能(予約)	すべて予約制
腎臓内科		菅原	越川	大崎啓	土井洋	越川	すべて予約制
		越川	土井洋	菅原	大崎啓	菅原	
		菅原	越川	大崎啓	土井洋	越川	
		越川	土井洋	菅原	大崎啓	菅原	
循環器内科		担当医	田中	伊藤晴	長央	福地	すべて予約制
		林富		稲田		田中	
		(第1・3・5週:長央 第2・4週:福地)	伊藤晴	林富		稲田	
		林富	田中	伊藤晴	長央	福地 高橋由樹	
不整脈内科		内山	牧田		牧田	内山	すべて予約制
	(ペースメーカーICD 担当医)	牧田		内山			
心臓血管外科		中山(予約)	中山(初診)		中山(初診)		すべて予約制
		担当医	担当医		坂本和		
小児科		住本(紹介・初診)	(リウマチ・アレルギー外来 住本)	葭井	(腎臓外来 住本)	(血液外来 藤野)	すべて予約制
		(アレルギー外来 安西)	竹川	(アレルギー外来 坂本晴)	(神経外来 坂本晴)	金岡	
		(神経外来 奥野)	植村	中道	(心臓外来 杉)	新居	
		林直		高野		(アレルギー外来 安西)	
小児外科		松川		松川			
外科 乳腺外科		山之口	伊藤剛	山浦	吉村文	中島研	すべて予約制
		花房	金谷	中島康	有本	岡田	
		奥村	有本	鈴木貴	横山	福田	
		露木	山口	(乳腺新患 露木)	(乳腺新患 木)	馬場園	
		山之口	伊藤剛	山浦	吉村文	中島研	
		花房	福田	中島康	有本	岡田	
		奥村	(乳腺 川口)	鈴木貴	(乳腺 河口)		
	露木	山口	(乳腺 仙田)				
整形外科		渡邊	鈴木隆	坂本武	大浦	富原	専門外来は予約のみ
		富	別當	堤	別當	担当医	すべて予約制
	(脊椎外来 坂本武)	(膝関節外来 大浦)	白	(スポーツ・肩外来 鈴木隆)	(第1・3・5週:渡邊 第2・4週:堤)		
リハビリテーション科		好井	好井	好井	好井	富原	
脳神経外科		担当医	山下	西村英	山下	金本	予約・紹介のみ
			金本		西村英	堀口	
			土井健		担当医		

科目	曜日	月	火	水	木	金	備考
神経内科		高橋牧	峠	鈴木聡	金田	高橋由佳子	すべて初診のみ
		午前:榎田(~14:00) 午後:森(14:00~)	金田	篠藤	高橋牧	中村毅	すべて再診のみ
		中村毅	鈴木聡	金田	永井	鈴木聡	
呼吸器内科		(無患外来を兼ねる 吉村千)			西坂	若山	※禁煙外来は 午後のみ
		森田	西坂	森田	多木	(無患外来を兼ねる 吉村千)	
		池上	中川和	若山	有安	中川和	
		吉田真	多木				
	(禁煙外来 若山)	岡本菜	吉田真				
呼吸器外科		(セカンド オペション外来 中出)	中出	渡辺裕		川邊	
				田中宏		山崎	
産婦人科		午前:川島 午後:松尾愛	芦原	(第1・3・5週:古田希 第2・4週:松尾愛)	午前:堀内 午後:河原	泉	午後は再診のみ ※月~金曜日 助産師外来あり
		午前:泉 午後:古田希	河原	吉岡	吉岡	三瀬	
		吉岡	堀内	川島	芦原	長野	
泌尿器科		大久保	光森	前野	西村一	岩村	初診(紹介)・予約のみ
		岩村	住吉	光森	前野	大久保	すべて予約制
		河野	西村一(紹介)	前野	住吉	河野	
		大久保	光森	前野	(前立腺外来 西村一)		
		岩村	住吉	光森	前野		
	河野		住吉				
眼科		高山	中川聡	秋元	中川聡	大中	(火・木) 再診は予約のみ
		秋元	担当医	中川聡	担当医	田口	
		廣井	田口(予約)	田口	廣井(予約)	高山	
		大中		廣井	高山	秋元	
		午前:田口 午後:中川聡		(未熟児外来 高山)	(奥野外来2・4週 武蔵)		
耳鼻咽喉科 頭頸部外科		古田一	吉松	吉松		古田一	
		田中信	平塚	田中信	担当医	平塚	
		小山泰	小山泰	山田	担当医	渡邊佳	
	隈部	山田	渡邊佳	担当医	隈部		
皮膚科		立花	立花	八木	立花	中東	すべて予約制
		八木	小林	小林	八木	小林	
		中東	太田	中島利	中東	太田	
		(爪外傷・ 定病変外来 立花) (アトピー性 皮膚炎外来 八木)	(ケミカル ピーリング 高瀬・太田)		(乾癬外来 中東)		
形成外科		重吉	小田	重吉	担当医	内藤	
精神神経科		吉田佳	早川	吉田佳	早川	吉田佳	
		久保	和田	中神	植野	和田	
		担当医	(初診外来 担当医)	土戸	(初診外来 担当医)	本	
放射線診断科		藤堂	塩崎	前倉	小山貴	森本	診断
		小山貴	(外科)	塩崎	(外科)	大谷	検査(透視)
		森本・小嶋	藤堂・小山貴	小山貴・森本	小嶋・塩崎	前倉・小山貴	検査(CT)
		小山貴	前倉	本田	森本	大野	検査(MRI)
		塩崎	森本	(循環器科)	大嶋	藤堂	検査(RI)
			岡田・大谷		前倉・大野		検査(血管造影)
		小山貴・前倉	大野・塩崎	塩崎・前倉	森本・前倉	大谷・塩崎	検査(CT)
	森本	小山貴	森本	塩崎	前倉	検査(MRI)	
	塩崎	前倉	藤堂	小山貴	森本	検査(RI)	
放射線治療科		石垣	中村清	担当医	中村清	石垣	
		中村清	石垣	担当医	石垣	中村清	
		中村清	石垣	担当医	石垣	中村清	
歯 口腔外科		井上	杉立	本橋	担当医	担当医	すべて初診(紹介)のみ
		杉立	本橋	杉立		杉立	すべて再診 (予約制)
		本橋	井上	井上		井上	

- 受付時間(月~金) (診療開始は午前8:45からです)
 - 初診の方/月曜日~金曜日 8:30~11:30 ●再診の方/月曜日~金曜日 8:00~11:45
- 休日 ●土曜日・日曜日・祝日・5月1日(本社創立記念日)・12月29日~1月3日
- 診察券 ●診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会(病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護士にご相談ください)
 - 平日/14:00~19:00 休診日/10:00~12:00、14:00~19:00 ●小児病棟(平日・休日とも)/14:00~19:00
- 保険証等 ●保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

■平成22年12月1日より
当院は敷地内全面禁煙です



当院は平成22年12月1日より、敷地内全面禁煙を実施します。ご理解とご協力をお願いします。

異動等により変更になる場合があります。
下記ホームページの各診療科のご案内をご覧ください。
各料外来にお問い合わせください。

お問い合わせ/TEL:06-6774-5111(代表)
(大阪赤十字病院) <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>
(赤十字全般) <http://www.jrc.or.jp/>

